

古人の足跡を訪ね

石部宿



東海道をいく 湖南の旅

「三雲横田渡し」夏見立場、石部宿、五軒茶屋



石造不動明王
鎌倉時代の作で右手に剣を持ち、大地に足をふんばっている姿は往時の信仰の強さを伝える。像の彫刻として立派なもので、特に産(がん)とう仏様を収納する厨子まで石で作られている点に特徴がある。

一里塚跡
石部宿から次の一里塚が夏見にあった。市道旧東海道線に一里塚を示す石が埋め込まれている。

由良谷川隧道
明治19(1886)年3月25日に完成。街道の通行をよくするために作られたアーチ型の隧道。外国人技師の設計により、県費で大沙川-由良谷川一帯横川の順に作られ、旧東海道筋にあった三つの隧道の一つ。

- 旧東海道
- 国道
- 主要地方道
- 一般県道
- 寺
- 神社
- 愛宕神社
- 高礼場跡
- 本陣跡
- 一里塚跡
- 石碑
- トイレ
- 信号
- レストラン
- 居酒屋・スナック
- レンタサイクル

このあたりの街道名物は「さくら名酒」と「ところてん」。「ところてん」のある茶屋が多かったという。

延命地藏尊(みがわり地藏)
伝説によると、ある晩街道を女が歩いていると、暴漢が出てきて斬りつけられた。「南無地藏菩薩」と念じて夫神して倒れふした。たすかっていることに驚き地藏尊に参ると、地藏さんの首から肩にかけて刀の跡がついていて頭部が地に軽けおろしていた。まさしく、身代りになってくださったのだと涙をながしたという。

三雲城址(吉永)
長享元年(1487)に三雲興勝が佐々木六角高頼の命によって築いた城で、東西約300メートル、南北約200メートルの広大な城域を有していたが、天正年間(1585)に甲賀守水口町に岡山城が築かれた際に石垣等が用材として持ち去られたといわれている。

夏見の里 藤棚跡
「近江名所図会」に「ところてんを売る「夏見の里」の藤棚があったところ」とある。

西住寺
室町時代の作と考えられる「石造一石六体地藏菩薩」があり、市指定文化財である。石の幅48cm、高さ73cm、厚さ18cmの自然石に六体とも銅柱をもっておられるお姿、両脇の二体の銅柱は消えかかっている。

妙感寺
三雲山麓にたたずむ紅葉の名所の一つ。1336年頃に藤原藤房によって開かれた。本尊木造十一面千手観音坐像を祀っています。本堂(観音堂)は、国の登録有形文化財です。

観音寺道
野洲川を渡って若根山東麓より佐々木六角氏本城の観音寺城へ通じる「観音寺道」が、わずかに残っている。

弘法杉
天井川になった大沙川の堤の上にそびえる大杉は、幹の周囲6m、高さ26m、樹齢750年といわれる「弘法杉」。弘法大師がここを通りかかった時、眺めがよかったこの場所で昼食をとり、その時使った杉箒を礎にした。後にこれが成長して大杉になったと伝えられ、弘法杉と名付けられました。

大沙川隧道
明治17年(1884)3月「滋賀県土木新 滋賀県土木百年表」では明治18年4月16日に「地下最初の道路トンネル」として築き、建設当時の姿を保持しており、上部に「大沙川」の額石が残っている。

宿泊リスト (湖南市観光協会会員)

名称	電話番号	郵便番号	住所
旅館 天保閣	(0748) 72-0865	520-3221	湖南市三雲26 (東海道沿い)
ビジネスホテルミクモ	(0748) 72-1234	520-3221	湖南市三雲149-1 (東海道沿い)
松月旅館	(0748) 72-5525	520-3251	湖南市朝国149-1
ホテルサンクレスト	(0748) 72-7777	520-3254	湖南市岩根中央1-33
やまりゆう	(0748) 72-0137	520-3254	湖南市岩根中央2-20
ABホテル湖南	(0748) 72-6000	520-3234	湖南市中央2-90

常夜燈
「弘化三年丙午(1846) (ひのえうま) 三月吉日 寄 伊右エ門同募六」と刻まれている。

三雲横田常夜燈
「安永八年己亥年霜月(1779年)(つらのえい)と刻まれている。

天保義民の碑
天保13年(1842)、幕府の不正な横領に抗議し、甲賀・野洲・東太郎の農民が決起。多くの犠牲者を出しながらも横領10万石延期の証文を勝ちとった。この碑は犠牲者を弔うため、明治31年(1898)に建てられた。高さ10m、幅1.5m。

園養寺
この寺は、伝説が聞かれたという。徳川時代に東海道、横田の渡しを往來する旅人の動静を報告する隠密の役目を果たしていたという。

横田の渡し
木曾川・天竜川など東海道13の渡しのひとつとされていた。3~9月は船で渡り、10月~翌年2月は飯橋が架けられていた。

東海道・横田渡常夜燈
「横田渡」を渡る旅人のため文政5年(1822)に建立された石燈籠です。総高7m以上、その規模は、東海道随一です。

湖南市の東海道沿いのおみやげ!

北島酒造【地酒・御代栄】
御代栄は、全製品愛情を込めた一品づくり。少しでも良いから本物の良い酒が飲みたいという気持ちから生まれたお酒です。
★御代栄
9時~17時 日・日曜・祝日
☎0748 (72) 0012

竹内酒造【地酒・香の泉】
蒸米から酵母づくり、仕込みまで丹念な手作業でつくられた豊潤酒。口当たりが良く、地方からのお客さんも多いとか。
★香の泉
9時~17時 不定期
☎0748 (77) 2001

谷口長栄堂【石部太鼓】
吉御子神社と吉姫神社に古くから伝わる祭囃子を奏でる太鼓にちなんでつくられた御菓子。石部の銘菓です。
★石部太鼓
10時~19時 年始のみ
☎0748 (77) 2101



東海道五十三次 石部宿

石部宿(いしべしゆく)は東海道51番目の宿場。京都まで1日の行程にあり、現在の滋賀県湖南市に位置しています。
宿の成立は、慶長6年(1601)に東海道各宿に朱印状が発せられ伝馬御発の定書が下付された時点とする説とされています。宿場内には、本陣2軒(小島本陣、三大寺本陣)、旅籠32軒を含む458軒が街道の両脇約1.6キロメートルにわたって建ち並んでおり、1843年には、中央に宿役人の詰める問屋場(とんやば)と高礼場がありました。
幕末には征夷大将軍徳川家茂が上洛の際に(1863年)、新撰組局長近藤勇も江戸下向の際に(1864年)それぞれ小島本陣に宿泊し、のちに最後の征夷大将軍となる一橋慶喜は上洛の際小島本陣に小休止(1863年)しています。現在、湖南市雨山文化運動公園内にある東海道石部宿歴史民俗資料館に宿帳などの歴史資料が展示されています。
また、石部は、帯屋長右衛門と信濃屋お半の悲恋物語、「桂川連理欄(かつらがわれんりのしがらみ)」の舞台となった宿で、歌舞伎や人形浄瑠璃で今もなお、全国各地で演じられています。